



録附號八十三百四第聞新とまや日四廿月三年一廿治明可認省信遷

近世人物誌

やまの新聞附録

河瀬某の妻
河瀬某の江州恒膳丹の藩士はし
て夙小才名あり文學に通下
武事習り殊々慷慨はて
憂世の志ありが文久慶應
の際尊王攘夷の説盛ん興り
志士勃興し天下騷擾す
慶應元年五月長藩譴を幕
府に得たり將軍家茂自より
長藩を征せんとす其の進發
の期に當り河瀬の同志數十名
と長藩の幸あはきを論じ其の
曲直を伸明せんと欲す言辭せ
られずして幕府の縛する所
となる河瀬の妻は年少姿
貞美うて固より賢夫人の
聞えあり其夫の囹圄より下り
行々戮せられんとするを悲
しみて自らら双ふ伏して死
せりとなん



等
五
[Red Seal]

發行所 東京 京橋区 尾張町二丁目番地 やまの新聞社
編輯 林 潤 伏見

